

おしゃべりは元気のもと

支部長 笠井ひで子（昭44年卒）

東日本大震災から1年経ちました。我々にとってもごく身近な地域が信じられないような大きな被害を受けました。皆様の中にも御親戚、ご友人の中に被災された方がおられると思います。不自由な生活環境、そして何より失われた家族や友人を思い、どんなにさびしく悔しい思いをしておられるのか胸が痛みます。

昨年は東京支部の活動も4月に予定していた評議員会やウェルカムパーティーを中止するなどの影響を受けました。総会も一時開催を危ぶまれましたが、「こんな時だからこそ集まろう」という掛け声のもと大勢のご参加をいただきました。友人とのふれあいが気持ちを前向きにしてくれることを実感できた印象深い会となりました。変則的な状況で動ずることなく頑張ってくださいました準備学年、評議員の皆様は心から感謝申し上げます。

新卒生同窓会入会式(山形)では、東京支部を紹介し、オリジナル一筆箋をお配りしています。毎年とても喜ばれております。色々な面で活躍し同窓会長から表彰された生徒さんや、代表で挨拶する方を見ていると18歳とは思えないほどしっかりした感じで、パワーが溢れています。支部総会にも東京方面に進学した新卒生13名の参加があり、会場が華やぎました。

昨年中止となった若手会員のウェルカムパーティーも今年は開催しております。支部長2期目の今年ですが、役員として何より頑張らなければならないのは、この会を次の年代へ引き継いでいくことだと思います。

同窓生には様々な才能を持った方がいます。目立つ所では吉村県知事や渡辺えりさん、支部総会で講演していただいた小倉董子さん、山口トキ子さん、卒業後もずっと続けている嚶鳴女声合唱団、みんなすごいなあと思います。

席を並べた同級生たちも年月と経験を経て、それぞれの持ち味と才能を発揮しています。そんな仲間といることがうれしくて過ごしているうちに柄にもない支部長になってしまった、というのが私の実感です。

今年の総会は60年卒の準備学年を中心に、震災から1年経った今私たちに何ができるだろうか、ということを考えながら準備が進められています。山形県は米沢市、山形市を中心に大勢の被災者の方を受け入れています。その山形を支援し、東北に元気を取り戻すため、ささやかなでできることを積み重ねていきたいと思います。

またみんなで顔を合わせ、思いきりしゃべって元気を分かち合いましょう。

20年後を楽しみにしています

前副支部長 伊藤優子(昭49年卒)

同窓会のあたたかさを私が初めて実感したのは、高校2年生。所属していた音楽部が全国大会のため東京に行った時でした。上野駅のホームに当時の東京支部長の神尾さんが激励に駆けつけてくださったのです。

それから時が流れ、9年前、同窓会の運営をお手伝いさせていただくことになりました。その時驚いたのは、私より少し下の世代に東京支部の存在があまり知られておらず、このままでは存続すら危ういということでした。

西高在学中に東京支部の思い出を残すことができれば、いつか記憶の奥から呼びおこしてもらえるかもしれない。そんな気持ちで始めたのが、卒業を間近に控えた3年生に活動を知らせる『東京支部プレゼンテーション』と、彼女たちを総会に招き大勢の先輩と親しんでもらうことです。

18歳の新同窓生も参加するようになった総会には新しい楽しみが。突然の指名にもかかわらず、ステージの上で挨拶する姿は初々しくも頼もしく、感動的です。大学生になった喜びに加えて、たくさんの先輩に

迎えてもらった体験は、きっと何十年か後の同窓会につながっていくことでしょう。

こうした活動の費用をまかなうため企画したのが『オリジナル一筆箋』です。「ワンコインで東京支部の未来をサポートしてください」の呼びかけに、東京のみならず山形からもたくさんのご厚意をいただいています。

東京支部の活動を知ってもらえないままになっていた方たちには『ウェルカムパーティー』へのご案内をしてきました。このミニ同窓会も8年目を迎え、昨年は、初回に対象学年だった昭和59年の卒業生が総会の準備学年を務めてくれました。若い世代が着実に同窓会の原動力になってきています。

私にとって印象的だった言葉があります。同窓生のよりどころになってほしいとホームページを開設した時、田中支部長(当時)がおっしゃいました。

「東京支部に、念願の『住所』ができました！」。

この『住所』にこれからも多くの人たちが訪れ、集い、先輩後輩の確かなつながりが次の世代へと広がっていくことを願っています。20年後が楽しみです^-^。

□■□ 総会準備学年より

伊藤昌子（昭60年卒）

総会開催の準備にあたり、昨年末、我が60年度卒業生が27年ぶりに再会を果たしました。その楽しかったこと！準備学年の大役が回ってこなければ、旧友と集い語り合う喜びを味わうこともなかったでしょう。同窓会のありがたさを痛感するとともに、その灯を守り続けて下さった先輩方には感謝の言葉もありません。そして今、引き継いだ責任の重さをずしりと感じながら、嚶鳴同窓生の絆を深めたいという願いと、震災後の東北復興を牽引している「ふるさと山形」への想いを胸に、仲間と心をひとつにして総会の準備を進めております。

てご活躍されている五十嵐佳子さん（昭和50年卒）をお迎えます。

五十嵐さんはこの3月に、山形への想いを込めてご執筆された『つや姫 10万分の1の米』（角川書店）をご刊行されたばかり。今回は、“今日を輝かせ明日を拓く。「書く」楽しみと喜び。”をテーマにご講演いただきます。書くことを通じて充実の人生を切り拓いてこられた五十嵐さんのお話に、日々を豊かにするヒントと、明日への活力をもらいましょう！

エンターテインメントでは、作家・エッセイストとし

東京嚶鳴女声合唱団の歌声もどうぞご期待ください。

平成23年度 活動報告

1月19日	新旧役員会／監査／引継ぎ
2月16日	第1回評議員会／役員・総会準備学年（59年卒）会
26日	総会準備学年打ち合わせ会
28日	東京支部プレゼンテーション（本部同窓会入会式にて）
4月9日	総会準備学年打ち合わせ・案内状準備（中止）
11日	第2回評議員会／役員・準備学年会（中止）
16日	第6回ウェルカムパーティー（中止） （4/9,11,16の活動は東日本大震災のため中止）
5月13日	第3回評議員会／役員・準備学年会
6月4日	総会準備最終打ち合わせ
12日	嚶鳴同窓会東京支部総会
29日	役員会
7月6日	第4回評議員会／役員・準備学年反省会
10月5日	役員会
23日	総会準備学年引継ぎ会（59年卒から60年卒へ）
11月20日	嚶鳴同窓会本部総会

平成24年度 役員

東京支部長	笠井 ひで子（昭44年卒）	顧問	遠藤 倭 久（昭30年卒）
副支部長	中島 幸 子（昭50年卒）	〃	田中 克 子（昭32年卒）
〃	四津 明 美（昭54年卒）		
庶 務	関根 博 子（昭44年卒）	平成24年度 総会準備学年	
〃	佐藤 真理子（昭45年卒）	代表	伊藤 昌 子（昭60年卒）
会 計	茂木 ゆかり（昭56年卒）		井上 知 子
〃	鈴木 まゆみ（昭57年卒）		加藤 かおり
広 報	宮川 香 子（昭58年卒）		田中 由 紀
監 査	橋本 節 子（昭28年卒）		萩原 千 史
〃	須貝 行 子（昭48年卒）		村井 圭

- ◇本年は役員改選の年に当たり、顧問の田中克子さん（昭32年卒）を委員長とする選考委員会が設置され、支部長、副支部長、広報が選出されました。
- ◇庶務・会計は、学年の順送りとなっており、当該学年より推薦されました。
- ◇顧問・監査については、支部長が選任いたしました。

お知らせ

- ◇ 住所や姓が変わられた方は、eメールで手続きができます。
 - ◇ ホームページに情報の掲載を希望される方、一筆箋やはがきの購入申し込みをされる方も、eメールをご利用ください。
- 同窓会のeメールアドレス dousoukai@oumei.jp

平成23年度 会計報告

支部長 笠井ひで子
会 計 高橋 清美
〃 茂木ゆかり

<一般会計>

1.収入の部	
前年度繰り越し	1,193,695 円
年会費	1,019,000 円
総会会費	2,610,000 円
特別会計より補助	50,000 円
本部より助成金	50,000 円
ご祝儀・寄付	120,000 円
雑収入（郵貯利子）	299 円
計	5,042,994 円
2.支出の部	
会議費	125,406 円
印刷費	88,034 円
事務用品費	16,096 円
通信費	284,481 円
渉外費	77,300 円
役員・準備学年活動費	144,815 円
雑費	16,800 円
事業費	
総会	2,845,625 円
ウェルカムパーティー（中止）	0 円
東京支部プレゼンテーション	5,000 円
ホームページ	6,925 円
計	3,610,482 円
3.差引残高	1,432,512 円

*1月～6月の運営費として、平成24年度へ繰り越し

<特別会計（一筆箋・はがき）>

1.収入の部	
前年度繰り越し	266,527 円
一筆箋売上げ(324冊)	162,000 円
はがき売上げ(46セット)	9,200 円
口座利子	69 円
計	437,796 円
2.支出の部	
総会事業補助	50,000 円
計	50,000 円
3.差引残高	387,796 円

*次回印刷費として平成24年度へ繰り越し

<監査報告>

帳簿・領収書等を照合の結果、適正に行われていることを認めます。 会計監査 結城洋子、橋本節子